

授業科目名・形態	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ 講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	石岡 和志・古川 博文	実務経験の有無	有	開講期	3年後期

【授業の主題】

この講義は、精神保健福祉士の科目である精神保健福祉の理論を基礎として、専門職としての基本的姿勢・態度を養い、さまざまな援助技術の技法（地域リハビリテーションの構成と社会資源の活用、ケアマネジメント、コミュニティワーク、地域精神保健福祉活動など）を習得する。

【到達目標】

- 1) 精神障害者を対象とした相談援助技術（個別援助、集団援助の過程と、相談援助の関連機関、家族の調整および家族支援を含む）の展開について理解する。
- 2) 精神障害者の地域移行支援および医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際について理解する。
- 3) 精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く地域生活の実態とこれらを取りまく社会情勢および地域相談援助における基本的な考え方について理解する。

【授業計画・内容】

- 第1回 相談援助活動の展開①
- 第2回 相談援助活動の展開②
- 第3回 相談援助活動の展開③
- 第4回 家族調整・支援の実際と事例分析①
- 第5回 家族調整・支援の実際と事例分析②
- 第6回 スーパービジョンとコンサルテーション①
- 第7回 スーパービジョンとコンサルテーション②
- 第8回 地域移行の対象及び支援体制①
- 第9回 地域移行の対象及び支援体制②
- 第10回 地域を基盤とした相談援助活動の主体と対象
- 第11回 地域を基盤にしたリハビリテーションの基本的な考え方
- 第12回 精神障害者のケアマネジメント①
- 第13回 精神障害者のケアマネジメント②
- 第14回 地域を基盤にした支援とネットワークング
- 第15回 地域生活を支援するための包括的な支援

【授業実施方法】

講義形式

【授業準備】

講義内容を踏まえ復習を行い、講義中に指摘する精神障害者関連情報を新聞や参考書を用いて確認すること

【主な関連する科目】

精神保健福祉援助技術各論Ⅰ、精神保健の課題と支援Ⅰ・Ⅱ、精神保健福祉制度論Ⅰ・Ⅱ、精神保健福祉援助演習 等

【教科書等】

古屋龍太編 5『精神保健の理論と相談援助の展開Ⅰ』、弘文堂
坂野憲司編 6『精神保健の理論と相談援助の展開Ⅱ』、弘文堂

【参考文献】

田中英樹：「精神障害者の自立支援活動」中央法規、西原理恵子：「おサケについてのまじめな話」小学館、
F・P・バイステック：「ケースワークの原則 援助関係を形成する技法」誠信書房

【成績評価方法】

出席状況及び授業態度等 10%、レポート等 20%、試験 70%

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

福祉事務所で精神障害者の支援を経験。現場での経験を精神障害者の「ケアマネジメント」に活かしたい。

【学生へのメッセージ】

ノーマライゼーションの理念を基本に、精神障害者が地域社会の中で暮らすためには様々な支援が必要である。障害者の特性やニーズを理解し、主体的に学ぶことを目的としている。